

大学 カリキュラムポリシー（2019・2020年度入学生）

大学 カリキュラムポリシー（2019・2020年度入学生）

鎌倉女子大学は、学修者が各学部・学科に所属することを通じて深い教養と高い専門性に富む学士力を修得するために、以下の教育課程を編成し、学修成果を図るための方途を定める。

- 1.カリキュラムの枠組みは、「建学の精神」、「精神と文化」、「社会と産業」、「生命と自然」、「生活と技術」、「健康とスポーツ」、「情報科学」、「外国語」の8分野からなる「総合教育科目」と学部・学科固有の「専門教育科目」によって構成される。
- 2.学修課程の体系性及び順序性と学修者の志向性及び選択性を尊重し、各科目を以下のような重層的・複合的構造の中に配置する。
 - ①基礎的学力、教養的知性、倫理性、身体性を培う「リベラルアーツスタディーズ」と学部・学科の専門力を養う「プロフェッショナルスタディーズ」の組み合わせを縦軸としたカリキュラム構造。
 - ②将来の職能・職域の選択肢を多様に確保するため、各種免許・資格の取得に向けての「免許・資格プログラム」と免許・資格に限定されない一般社会で広く活躍できる資質を養う「企業学習プログラム」の組み合わせを横軸としたカリキュラム構造。
- 3.大学での学修を可能にするアカデミックな基礎的技能を養うスタートアップセミナーから、各種講義、演習、実習、実験、実技、当該学科の総合研究に至る、多様な教授内容と教授方法に基づく授業を設置する。
- 4.学修者が履修過程を振り返りながら、着実な学修課程を歩むことができるよう、GPA制度に基づく成績評価を行う。
- 5.各科目担当者は、自らの授業を通じて、当該の授業内容のみならず、学修者の汎用的能力の育成及び主体的な学びを促進するために貢献できるシラバスを自覚的に作成し、授業を遂行するよう心がける。
- 6.クラスアドバイザー等は、学修者が着実な学修課程を歩むことができるよう、学修・生活全般にわたる定期的な面接指導等を行う。

家政学部 カリキュラムポリシー（2019・2020年度入学生）

家政学部は、以下の諸点に注力しながら、カリキュラムを編成する。

- 1.「総合教育科目」及び「専門教育科目」を統合的に学修することにより、学生が幅広い知識と豊かな人間性を基礎とし、専門的知識及びスキルを修得することを支援するカリキュラムの編成。
- 2.「リベラルアーツスタディーズ」と「プロフェッショナルスタディーズ」の縦軸と、「免許・資格プログラム」と「企業学習プログラム」の横軸とを立体的かつ複合的に組み合わせ、学生が自らのコアコンピタンスを形成しながら、将来の生活設計に対して開かれた可能性を志向することのできるカリキュラムの編成。
- 3.家庭、栄養、保健等に関する専門的知識及びスキルを生活世界の様々な場面に即して活用できる実践的な応用能力を開発するカリキュラムの編成。

- 4.学生の関心と選択の幅を広げることによって学生の学修意欲を高めるとともに、自らの関心と選択を対象化できる視点を養うことに配慮したカリキュラムの編成。
- 5.各自の到達目標を設定し、 Semesterごとに、専門的知識及びスキル、また人間形成に必要な教養の到達度を確認しながら自己実現に向けて自己評価ができる学修課程の編成。

家政保健学科 カリキュラムポリシー（2019・2020年度入学生）

家政保健学科の専門教育科目は、家政学並びに保健学の幅広い領域を「生活環境デザイン」「生活経営情報」「教育健康福祉」の3つのキーワードを中心に体系的に整理されている。このキーワードで括られる科目群は、同時に履修モデルを意味し、学生は、これらをモデルとしながら、自らの関心と希望に応じて横断的に選択履修することができる。

詳細は、以下の通りである。

- 1.家政学及び保健学を総合的に学修する基盤科目として、家政学、保健学、生活経営学（家庭経済学を含む）、家族関係学の4科目を必修とし、第1～2 Semesterに配置する。
- 2.「免許・資格プログラム」として、中学校・高等学校教諭1種免許状（家庭・保健）及び養護教諭1種免許状、フードスペシャリスト、インテリアプランナー登録資格の課程を設置し、学修者の将来設計に応じ、組み合わせで履修することが可能となるように配置する。
- 3.「企業学習プログラム」として、生活経営学（家庭経済学を含む）の科目を中心に、総合教育科目群と専門教育科目群から選択履修することで、社会で活躍するための資質を身につけさせることを目的とする。
- 4.生活課題を解決する知識・技能を培うために、講義に加え、演習、実験及び実習を組み合わせることにより、学修成果を上げる授業内容を提供する。
- 5.学内で得た知識や技術を応用して、課外活動（教育ボランティア、地域ボランティア、インターンシップ等）に自発的かつ積極的に参加できるプログラムを提供する。
- 6.「家政保健学総合研究」は、Semester単位で2年間の履修とし、学修者の専門性を深めるとともに生涯にわたる学修態度を養い、関連する教育体験、地域及び企業等と連携した企画等に参加することで、社会性や倫理観を養いながら実践力を身につけさせる。

管理栄養学科 カリキュラムポリシー（2019・2020年度入学生）

管理栄養学科の「専門教育科目」は、食生活を通して疾病を予防・治療し、健康を維持増進したいという国民的課題に応えられる管理栄養士、また栄養教諭の養成を目的として編成された実践的なカリキュラムとなっている。

詳細は、以下の通りである。

- 1.専門教育科目を履修する上で基礎となる化学、生物学、生化学、解剖生理学、基礎栄養学等を第1～3 Semesterに置いて専門知識の基礎を学び、第3 Semester以後に、応用栄養学、臨床栄養学、給食経営管理等の科目を配置し、専門知識の修得を更に進めるようにする。
- 2.第1～6 Semesterまでは「専門教育科目」の講義・演習と併行し、実験・実習を行い、知識を深めると同時に技術の習得を図る。
- 3.第5 Semesterから知識と技術の統合を図るため、管理栄養士の実践活動の場である病院等において臨地・校外実習を行う。

4.第5セメスターから始まる「管理栄養学総合研究」において、専門的知識を深めるため、少人数制で特定のテーマについて、特定の教員の指導のもとで研究を行い、更に第7セメスターからの卒業研究を履修した場合には、管理栄養学総合研究での研究成果として発表する。

5.栄養教諭1種免許状の取得については、管理栄養士養成課程の卒業必修単位に加え、第1～8セメスターに、栄養に係る教育及び教職に関する科目を配置する。

児童学部 カリキュラムポリシー（2019・2020年度入学生）

児童学部は、以下の諸点に注力しながら、カリキュラムを編成する。

- 1.「総合教育科目」及び「専門教育科目」を統合的に学修することにより、学生が幅広い知識と豊かな人間性を基礎とし、専門的知識及びスキルを修得することを支援するカリキュラムの編成。
- 2.「リベラルアーツスタディーズ」と「プロフェッショナルスタディーズ」の縦軸と、「免許・資格プログラム」と「企業学習プログラム」の横軸とを立体的かつ複合的に組み合わせ、学生が自らのコアコンピタンスを形成しながら、将来の生活設計に対して開かれた可能性を確保できるカリキュラムの編成。
- 3.児童学全般について、教育・保育・福祉・社会・心理・保健・表現文化の各分野から、系統立てて学んでいくことのできるカリキュラムの編成。
- 4.児童と児童を取り巻く家庭・地域・学校・社会・世界にわたる高度の理解に基づき、求められるニーズに必要な知識・技能を提供できる資質を養うカリキュラムの編成。
- 5.児童学科には「初等教育」、「児童福祉」、「児童発達臨床」、「表現文化」、「子どもと健康」の5つの学びのキーワードを、子ども心理学科には「発達と社会の心理」、「教育と学習の心理」、「子どもの心理臨床」の3つの学びのキーワードを設定し、児童学全般を常に視野におさめながら、自らの興味と関心に応じて修学できるカリキュラムの編成。

児童学科 カリキュラムポリシー（2019・2020年度入学生）

児童学科の専門教育科目は、学科のディプロマポリシーに謳われた諸基準を満たす学生を養成することを目途として編成されている。

詳細は、以下の通りである。

- 1.総合学としての児童学を理解するために、教育・保育・福祉・社会・心理・保健・表現文化の各専門分野にわたる専門必修科目を置く。
- 2.児童学の各専門分野を学ぶために、「初等教育」、「児童福祉」、「児童発達臨床」、「表現文化」、「子どもと健康」からなる5つの学びのキーワードに準じた専門教育科目群を置く。
- 3.身体的・芸術的・言語的表現力を高め、急速に変化する現代の教育・保育の現場で通用する実践力を身につけるために、各分野の演習・実習科目を置く。
- 4.学修者の多様なキャリアニーズに対応するため、児童学と企業学習の接点を見出すことのできる汎用的な専門科目を置く。
- 5.自らの問題意識に基づき、当該の専門分野の教員による指導を受けながら、児童学の専門知識・技能を長期的に探究していく「児童学総合研究」を置く。

6.専門教育科目は、小学校教諭1種免許状、幼稚園教諭1種免許状、特別支援学校教諭1種免許状、保育士、児童厚生1級指導員、レクリエーション・インストラクター等、複数の免許・資格を選択する上に必要な科目を含む、変化の激しい現代社会における初等教育段階に対応できる資質を養う幅広い関連科目を編成している。

子ども心理学科 カリキュラムポリシー（2019・2020年度入学生）

子ども心理学科の「専門教育科目」は、児童学の一翼を担う心理学を中核としながら、児童関連諸科学を学修することを通じて、子どもの心理、行動、存在、またその背景としての子どもが生きる生活世界及び文化環境の科学的理解を促すことを主眼として編成されている。

詳細は、以下の通りである。

- 1.学習心理学、認知心理学、感情心理学、統計解析法、心理学実験等の基礎的な心理学、さらに発達心理学、教育心理学、臨床心理学、社会心理学等の幅広い分野の心理学の専門的諸科学を系統的かつ専門的に学ぶことのできるカリキュラムの編成。
- 2.学修した心理学の専門的知識及び技術を活用して、様々な子どもの生活現場並びに学習現場に対応できるカウンセリングマインド及びスキルを育成できるカリキュラムの編成。
- 3.文献研究、実験研究、調査研究などの研究方法を学修することによって、子どもの成長を支援し得る実践力を培うことのできるカリキュラムの編成。
- 4.また、これら心理学の知識と技術に加え、児童学が本来基礎とする関連分野、即ち教育、福祉（社会）、保健、表現文化、また生物学、脳科学、精神医学等の観点から、子どもの心理と行動を多面的に理解し、教育、保育、福祉、医療等の子どもと関わる場で活躍する有能な人材を養成するカリキュラムの編成。
- 5.第5セメスターから所属する「子ども心理学総合研究」において、2年間継続的に専門的知識を深めながら、研究態度及び方法を学ぶ。
- 6.専門教育科目は、公認心理師、認定心理士、認定ムーブメント教育・療法中級指導者の免許・資格を履修する上に必要な科目を含むカウンセリングマインド及びスキルを養う関連科目を編成している。

教育学部 カリキュラムポリシー（2019・2020年度入学生）

教育学部は、以下の諸点に注力しながら、カリキュラムを編成する。

- 1.「総合教育科目」及び「専門教育科目」を統合的に学修することにより、学生が幅広い知識と豊かな人間性を基礎とし、専門的知識及びスキルを修得することができるカリキュラムの編成。
- 2.「リベラルアーツスタディーズ」と「プロフェッショナルスタディーズ」の縦軸と、「免許・資格プログラム」と「企業学習プログラム」の横軸とを立体的かつ複合的に組み合わせ、学生が自らのコアコンピタンスを形成しながら、将来の生活設計に対して開かれた可能性を確保できるカリキュラムの編成。
- 3.生涯学習過程を通じて学び続ける教師を養成するため、総合教育科目を履修することによって、その基盤となる自己教育力を身につけさせるカリキュラムの編成。
- 4.広い教養に裏づけられた教育学的識見と高い専門性をもった教授スキル、また教育職員としての情熱・勇気及び人間性を身につけさせるカリキュラムの編成。

教育学科 カリキュラムポリシー（2019・2020年度入学生）

教育学科の専門教育科目は、学校教育現場及び広く教育学的知見・技能及び判断力を必要とする社会のニーズに応えることを目途として編成されている。特に、全科目を学修段階に応じて、8つのセメスターに系統的に配置している。

詳細は、以下の通りである。

- 1.第1～2セメスターは、本学の「教育の理念（感謝と奉仕に生きる人づくり）」を初めとする建学の精神から始まり、高等教育における学修スキルのみならず、教育学的専門性を向上させるため、総合教育科目群と専門教育科目群の2領域の科目を同時に並行的に開講する。また、集団宿泊を伴うフレッシュマンセミナーを通して、教員としての実践的指導力の育成に資する教育実践演習を配置している。
- 2.第3～4セメスターは、介護等体験が始まり、教育インターンシップの履修によって就業経験をしながら、取得希望の免許・資格を最終的に決定していく。
- 3.第5～6セメスターは、教育実習指導が始まり、教育実習報告会を聴講し、教育実習に向けた準備段階に入る。また、「教育学総合研究」に所属し、ラボワークを通して教育者としての研究心を育てる。
- 4.第7～8セメスターは、教育学総合研究での研究を継続しながら、教育実習に参加し、教職実践演習の履修において教員として必要な資質能力が有機的に統合・形成されているかを最後のセメスターにおいて確認し、新たな課題を自覚しながら教職生活を円滑にスタートできるようにする。
- 5.専門教育科目は、小学校教諭1種免許状、中学校教諭1種免許状(国語・社会)、高等学校教諭1種免許状(国語・地理歴史・公民)、学芸員、司書教諭等、複数の免許・資格を選択する上に必要な科目を含む、変化の激しい現代社会及び教育問題に対応できる資質を養う幅広い関連科目を編成している。